

全国高校PTA連合会大会 岩手大会

高校生を取り巻く現状



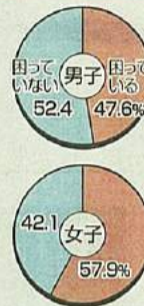
勉強

- 生徒自身の精神力/精神状態・能力について(36%)
 - やる気が出ない(452人)
 - 集中力が続かない(195人)
 - 成績が悪い・頭が悪い(302人)
- 学習方法・学習時間・学習環境について(29%)
 - 勉強のやり方がわからない(476人)
 - 勉強時間がとれない(160人)
 - 部活との両立ができない(41人)
 - 家で勉強できない(61人)
- わからない・ついていけないなどについて(26%)
 - 勉強・授業についていけない(346人)
 - 数学がわからない(187人)
 - 英語がわからない(149人)
- 受験・進路について(5%)
 - 進路が決まらない(80人)
 - 受験勉強は何をすればよいかわからない(69人)
- その他(4%)
 - 何がわからないかわからない(20人)

具体的に困っていることは何ですか?

※自由記述・帰納的内容分析

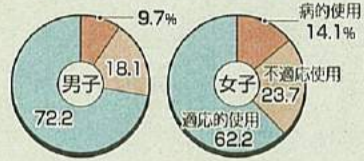
勉強で困っている生徒



半数が勉強で困っている

希薄なつながり

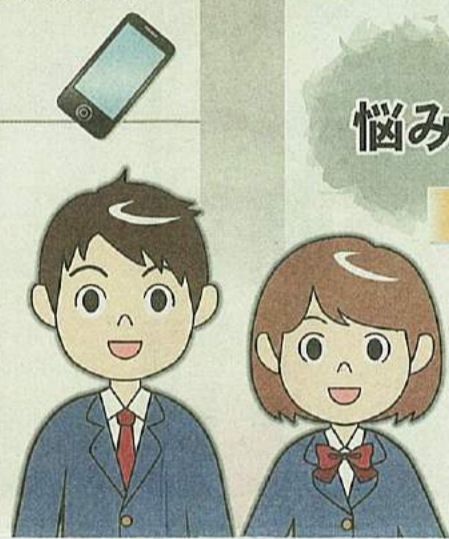
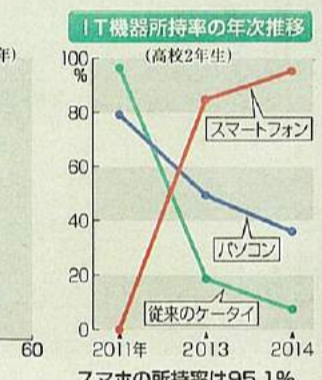
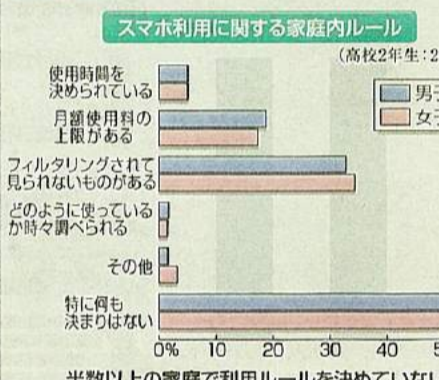
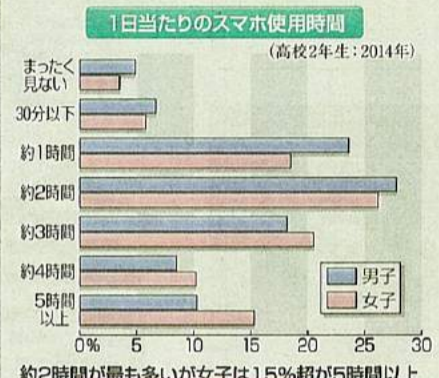
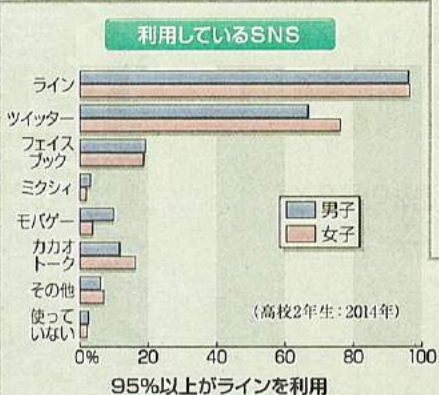
スマホの依存状況



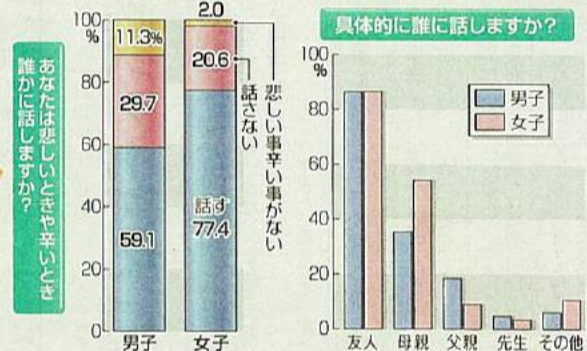
女子の14%がスマホを病的に使用

スマートフォン

- 母親との関係に満足していない生徒のスマホ依存は9倍
- 親との会話が少ない生徒のスマホ依存は3~4倍
- スマホにはまるほど学力は低下する(2倍)

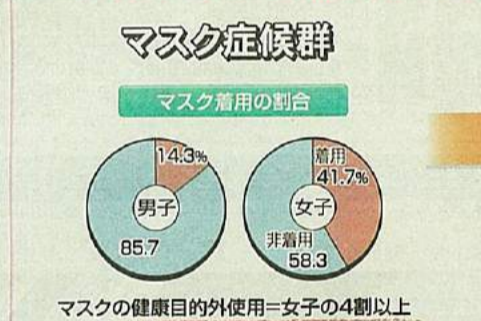


悩み



- 相談しない群(61%)
 - 言うのが面倒だから
 - 自分で解決するから
 - 必要ないから
- 相談したくない群(13%)
 - 言いたくないから
 - 弱みを見せたくないから
 - 信頼していないから
- 相談できない群(16%)
 - 相談相手がいらないから
 - 言いにくいから
 - 理解してもらえないから
 - 恥ずかしいから
 - うまく言えないから
 - 明るい話をしていたいから

現実の人間関係



「安心するから」
「表情を見せたくないから」
「みんなが使っているから」
「印象を薄くするため」
「自分の存在を消したいから」

※ファッション、小顔効果、肌荒れ隠しも

マスク使用の方が
自尊心が低い
鬱(うつ)傾向が高い

現実コミュニケーション回避

- 先生が頑張り気づいてくれないほど学力が低下(3倍)
- 親との会話が少なく自尊心(自己肯定感)が低下(3~6倍)
- 自尊心が低い、将来への意欲がないほど学力が低下

高校生を取り巻く状況は潜在化、複雑化
→大人の本気度が問われる

※全国高校生生活意識調査 (社)全国高等学校PTA連合会/木原雅子京都大准教授他調査・木原准教授講演資料より作成

木原 京都大准教授に聞く

「『危険感』を当事者意識を持つことが大切だ。使用時間など子どもの自発的なルールづくりに促される。何事も同様だが大人の押しつけは子どもが反発する。『マスク症候群』は、『子どもの自尊心を高める授業を各地で行っているが、学校の雰囲気を知る目的で生徒から事前聞き取りをしている。約5年前から」

「『この『危険感』を当事者意識を持つことが大切だ。使用時間など子どもの自発的なルールづくりに促される。何事も同様だが大人の押しつけは子どもが反発する。『マスク症候群』は、『子どもの自尊心を高める授業を各地で行っているが、学校の雰囲気を知る目的で生徒から事前聞き取りをしている。約5年前から」

「現実関係希薄化」に警鐘



青少年の健全育成に関わる調査内容を発表する木原雅子京都大准教授

「『この『危険感』を当事者意識を持つことが大切だ。使用時間など子どもの自発的なルールづくりに促される。何事も同様だが大人の押しつけは子どもが反発する。『マスク症候群』は、『子どもの自尊心を高める授業を各地で行っているが、学校の雰囲気を知る目的で生徒から事前聞き取りをしている。約5年前から」

「『この『危険感』を当事者意識を持つことが大切だ。使用時間など子どもの自発的なルールづくりに促される。何事も同様だが大人の押しつけは子どもが反発する。『マスク症候群』は、『子どもの自尊心を高める授業を各地で行っているが、学校の雰囲気を知る目的で生徒から事前聞き取りをしている。約5年前から」

「『この『危険感』を当事者意識を持つことが大切だ。使用時間など子どもの自発的なルールづくりに促される。何事も同様だが大人の押しつけは子どもが反発する。『マスク症候群』は、『子どもの自尊心を高める授業を各地で行っているが、学校の雰囲気を知る目的で生徒から事前聞き取りをしている。約5年前から」

豊作の喜びを表現

岩泉高郷土芸能同好会 部長 加藤有希子さん(3年) 開会式前のアトラクションとして岩泉に伝わる郷土芸能「中野七頭舞(ななすまい)」を披露した。部員たちと、笑顔と全身で豊作の喜びを表現しようと掛け合っていた。緊張もしたが、自分たちの舞を楽しめた。お客さんの心に少しでも残ってくれたらうれしい。

学習環境に格差も

大船渡高教諭 赤崎琢哉さん(54) PTAの方々や大会に参加している。岩手の子供たちは素直で純粋な子が多いと感じるが、学力の面では課題も多く、関東と比べれば学習環境の格差もある。子や保護者、教員の学びに対する価値を高められる大会にならばいい。全国の方には沿岸に来て復興の様子も体感してほしい。

もっと大人も勉強

沖繩県沖繩市 県立コザ高PTA 副会長 森田好美さん(46) 高2の娘がいる。被災地の現状や、子どもを取り巻く情報化社会について、少しでも多くの情報を持ち帰りたいと参加した。ネットについては子どもたちの理解の方が早い。被害を防ぐには、大人たちが問題を詳しく勉強し、追いつくことが課題だと思う。

多くの発見届ける

花巻南高PTA会長 滝本昭信さん(52) アビオで総合案内を担当した。昨年、福井大会に参加し、子どもの可能性を引き出すために背中を押す重要性など、多くの発見・収穫があり感動してきた。全国のPTA仲間にもその感動を届けたい。気持ちのいい滞在になるよう、今度は運営側として全力で支えたい。

岩手の良さをPR

総合案内役 新藤裕美さん(53) 全国からのお客さまを笑顔で迎えることを心掛けている。観光地ではなく地元のお店を知りたいという来場者もおり、自分の知る店を紹介して会話が弾むなど心温まるつながりもできた。大会はもちろんだが、岩手の良さを感じ、満喫してもらおうと、来年の国体にも足を運んでほしい。

【調査概要】全国9地区から各校、約7200人のうち、6585人(普通科校3、専門または総合校2)に参加。00年から青少年のエイズ予防教育に携わり、現在は子どもの自尊心を引き出す授業を各地で展開。著書に『10代の性行動と日本社会』(ミネルヴァ書房)など。長崎県出身、61歳。